

皆さん、こんにちは。校長の佐久間です。

本日は、新型コロナウイルス感染症の予防のため、放送で終業式を実施することにしました。

先ず、昨年度末から、新型コロナウイルスの感染症予防のため、通常の教育活動が実施できない状況が続いています。6月に分散登校が始まったころは、感染者が減り、やや落ち着いている状態でしたが、7月に入って再び感染者が増加しているのが気がかりです。また、既に報道されていることなので皆さんも知っているかもしれませんが、埼玉県内の2つの県立高校で、それぞれ複数名の生徒が新型コロナウイルスに感染したことも気になっています。授業・部活動・学校行事等の教育活動に、現在でも様々な制限が加わっている状況ですが、皆さんの生命と健康を維持する上で必要なことなので、ぜひ理解してください。また、このような状況が、2学期以降も続くと推測されます。場合によっては、ワクチンや治療薬が開発・製造されるまで、感染防止を継続しながら、新型コロナウイルスと共存して行かなければならないかもしれません。ですから、夏季休業中も、登校日や補習・部活等、外出しなければならぬときは、人混みを避け、手洗い・うがいを励行し、マスクを着用してください。また、検温等の健康観察も、これまでどおり継続してください。お願いします。

さて、我々人類の歴史は、感染症との戦いの歴史であったといえるかもしれません。例えば、14世紀から15世紀にヨーロッパで大流行したペストや、19世紀に幕末の我が国もパンデミックに巻き込まれたコレラ、さらには1918年、第1次世界大戦の戦場からパンデミックが発生したインフルエンザ等、歴史に大きな影響を与えた感染症もありました。

感染症の流行により、多くの人命が奪われるなど負の側面がありますが、一方で感染症を克服することによって人類が進歩・発展してきたという面もあります。ワクチンや治療薬の開発による医学の進歩や公衆衛生の向上が図られるからです。天然痘は、ジェンナーによる種痘の普及により、自然界ではほぼ根絶されてしまいました。

皆さんの中には、現状に悩んだり、先行きに不安を感じたりすることがあるかもしれません。しかし、むしろこのような時だからこそ、「プラス思考」で、今できることを着実に行っていただきたいと考えています。1・2年生は苦手教科の克服、3年生は受験勉強に取り組むのがよいのではないのでしょうか。「ピンチをチャンスに変える」という意識で取り組みましょう。ただし、悩みや心配が解消できない場合は、遠慮なく先生方に相談してください。

また、夏季休業中は、感染を避けるため自宅にいる機会が多くなると思います。その際、皆さんに読書もお勧めしたいと思います。幕末に活躍した長州藩の吉田松陰は、弟子の野村和作（靖）に宛てた手紙に「読書最も能く人を移す。畏るべきかな書や」と記し、読書は人を成長させる上で最も効果があると述べています。その一方で、松陰は「図書に山水を按じ、文書に古人を友とす」（「松岡良哉が相模に之くを送る」）とも説いています。これは、本を読むことで、訪れたことのない所の風景を想像したり、昔の人を友人としたりすることもできるという意味で、松陰が読書を大いに楽しんでいたことが窺えます。現在の私にとっても、読書とは、まさに「文書に古人を友とす」です。本を読むことで、過去の人物から様々なことを教えられたり、歴史的な場面に自分が立ち会ったような気分を味わったりすることができます。ちなみに、本校の図書館には、4万7千冊以上の本が収蔵されています。もしかすると、皆さんの生き方や在り方を変えるような素晴らしい本が眠っているかもしれません。ぜひ、図書館の本も、手に取ってみてください。

結びとなりますが、皆さんが充実した夏季休業を過ごすとともに、8月25日（火）に、元気に登校することを願っています。以上で話を終わります。